

学校評議会議事録

日 時 令和 3 年 2 月 27 日 (土) 13:00～15:37

出席者 ●学校評議員

神戸赤十字病院

診療放射線技師

神戸市立医療センター中央市民病院

臨床工学技士

あさぎり病院

視能訓練士

神戸百年記念病院

理学療法士

株式会社セラピット

作業療法士

●学校職員

学校長 各科 1 名 事務担当者 1 名

学校評議員の欠席者 大隈病院 言語聴覚士

司会 学校評議会開式の宣言

学校長挨拶

昨年 1 月より、新型コロナウイルス感染症に振り回されてきた。後期からは何とか対面授業が行え、学校の役割を果たせた。

学校評議会でも、外部の先生の貴重なご意見を学校運営に生かしたい。

改善の効果が現れるには何年もかかるが、ご意見を頂きたい。

司会 本日の出席者の紹介

学校評議員を、学科の設立順に紹介し、その後学校長をはじめ各学科代表者を紹介する。

評議員(言語聴覚士)は所要のため欠席

司会 議長選出を行う。

神戸赤十字病院 放射線技師に依頼。

議 事

議長

書記を事務職員に願いたい、よいか確認する。

議事録署名人は評議員 2 名選出。

両名の了承 確 [いずれも反対意見はなく決定される。]

議事に入る

平成 31 年度(令和元年度)学校自己評価報告書の結果報告を求める。

学校長

委員会組織について(自己評価報告書 ; 3 ページ)

委員会組織において、9 委員会を検討すべき課題にかかわる関連性をもとにグループ化した。

より緊密な連携を取りながら取り組めるよう改善をした。

また、組織図にないが総務委員会を作り、委員会全体の統合・調整の役割を担うものを作っている。

理念・教育目標・目的 (自己評価報告書 ; 5 ページ)

学校全体のものとして明文化し、それぞれの目標達成を目指す教育を行う上で、3つのポリシーを掲げている。

3つのポリシーの説明

・ディプロマポリシー 卒業に向けての修得すべき事項を示す

- ・カリキュラムポリシー 教育理念と目標達成に向けた教育課程の編成
 - ・アドミッションポリシー 新入生に向け学校の求める人物像を明示
- 本年度の重点目標 (自己評価報告書; 8 ページ)

重点目標を掲げ学科間、教職員間で共有し取り組んでいる。

この目標は1年で終わるものでなく、共通認識のもと継続して取り組んでいくものである。
学校の目標(今後5年) (自己評価報告書; 7 ページ)

中長期的観点から数値目標を掲げ、目標達成に向けて励んでいく。

1. ガバナンス

運営方針 (自己評価報告書; 9 ページ)

運営方法については昨年同様継続して取り組むものである。

- ・財務基盤の安定化
 - ・充実した教育の提供
 - ・学生、教職員ともに安全安心な学校
 - ・学生ファーストの支援体制の充実
 - ・慈恵会グループの他施設との密接に連携を取り特徴を生かした運営
- 年ごとに進歩している。素晴らしい学校に近づけて行きたい。

運営組織 (自己評価報告書; 10 ページ)

3 ページの組織図のような委員会運営では、各科からの参加者による活発なディスカッションを通して学科間の連携がよくなり、協力体制も出来上がってきた。

人事・給与制度 (自己評価報告書; 11 ページ)

学校の教員・事務職員など学校運営には男女差はないと考える。評価、人事等の上で公平に対処している。

意思決定システム (自己評価報告書; 12 ページ)

全教職員が知恵を出し合って行えるようになりつつある。

コンプライアンス体制 (自己評価報告書; 12 ページ)

指定規則やそのほかの規則等に即して学校運営が行われている。

情報システム (自己評価報告書; 13 ページ)

医療系の学校では臨床実習の際患者さんのデータなど個人情報にかかわる。また、学内では学生の個人情報と接する。学生、教職員とも慎重に取り扱うよう心がけている。

また、学校の活動状況の発信、宣伝につなげより多くの人に周知を図ることも目指したい。

財務基盤 (自己評価報告書; 14 ページ)

今は健全な状態である。財務安定のためには、安定した学生の確保が必要である。

社会では4年制大学志向が高まる逆風のなか、効果的な方策を講じ学生を確保することがより重要となる。

このような中でこそ能動的に立ち向かう姿勢が必要である。

次年度の入学者確保はこの社会情勢のなか、前年度並みあるいはそれ以上確保できそうな状況にある。

現状では財務基盤に対し大きな問題はないと思われる。

関係法令、設置基準の遵守(自己評価報告書; 16 ページ)

指定規則などの諸規則に則り、最低限の基準は満たしている。

学校ではその基準よりより良い教育環境を作っている。

議長

今の説明について評議員の先生方質問はないか。

次に教育についての報告を求める。

2. 教育 (自己評価報告書; 19 ページ～31 ページ)

教員

教育について、項目に沿って説明を行う。

議長

質問はないか

2点ほど聞きたいが、入学前教育プログラムとはどんなものか。

教員

株式会社進研アドに依頼し、入学試験合格者に課題を送付、その回答期日を指定し学校へ返送するシステムを利用している。

課題の内容としては数学や物理を含めた一般教養基礎科目や、医療職としてのマナーに関するものなどが含まれている。

この課題の提出率が重要と業者から聞いている。

議長

ホームページも充実して SNS やフェイスブックなども活用されているようだ。昨年の評議会で、WEB から応募できる学校もあるなか、神戸の学校ではまだできていないようであったが、その後どうなったか。

教員

本校では改善できていない。紙ベースの出願である。

議長

学生支援についての報告を求める。

3. 学生支援（自己評価報告書；32 ページ～39 ページ）

教員

学生支援について、項目に沿って説明を行う。

議長

説明について意見はないか

議員

抗体検査4種の実施等について書いてあるが、新型コロナウイルス感染症に関してはどうか。

今年度実習が短くなるなど、実習の機会を学生は失っている。就職受け入れ側としてはいくらか不安でもある。新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの普及により今後どうなるか今のところは不明であり、実習に対する具体策もないが今後の課題と考える。

議長

新型コロナ感染について、令和2年度学校での感染状況はどうか。

学校長

昨年2月より早めの対応を行ってきた。入学式も4月2日に簡素化の上実施。その後保健委員会等の活動で、手指消毒などの徹底により感染防止に努めてきた。

第3波のなか、年末年始に3名の陽性者があった。保健所の立ち入り検査もあったが、学内での濃厚接触者なしとの判断により、学内の消毒等も不要であった。

家庭内で陽性者発生により濃厚接触者となった学生はいたが、いずれも事前指導の成果により、感染は防げた。

現状では年末年始3名の陽性者以外はなく、学内でのクラスターも発生していない。

議長

コロナ禍の中、授業はどのように行ったか。

教員

5月のゴールデンウィーク明けからズーム授業を行ってきた。一部対面授業とオンライン授業のハイブリッド方式で行ったこともある。後期は基本的には対面授業を実施。

窓やドアを開け換気に心がけるとともに、いたるところに手指消毒液を配置し、感染予防に努めた。

議長

他の評議員から質問はないか。

議員

コロナ禍の中授業を行う上で学生、教職員のモチベーション管理をどうしたか。

教員

常に感染の可能性のある中授業を展開していた。感染した場合の誹謗中傷などが起きないよう常に事前指導を行ってきた。

学校長

ズーム授業では学生の反応が分かりにくく、物足りなさがあった。

5月以降はコロナ疲れも見受けられた。後期に入り感染予防のため、窓やドアを開け三密を避けた授業や、10月末には学科や学年などをグループ分けし、ハロウインの仮装を行う機会や、やきいも・うどんなどを食べる「遊べる催し」を行い、息抜きを行った。

学生は十分楽しんでくれたのではないかと感じた。このことにより、教員と学生間のコミュニケーションも少しは良くなったのではないと思われる。

このようなことで、教員と学生のコミュニケーションが取りやすくなるきっかけであれば、コロナとは関係なく遊びのイベントを来年も続けたい。

議員

イベントがとても楽しそうな雰囲気、学生・教職員とも良い息抜きになったのではないかと感じられた。

議長 環境整備、社会貢献・地域連携について説明を求める

4. 環境整備

5. 社会貢献・地域連携（自己評価報告書；40 ページ～47 ページ）

教員

環境整備、社会貢献・地域連携について説明を行う。

議長

講師持参の USB メモリーのウイルスチェックは事前にされているか。

教員

事前チェック及びウイルス対策ソフトを使い対応している。

議長 学科の報告に移る。

教員

診療放射線科の説明（自己評価報告書；48 ページ～50 ページ）

教員

臨床工学科の説明（自己評価報告書；51 ページ～53 ページ）

教員

視能訓練士科の説明（自己評価報告書；54 ページ～56 ページ）

教員

理学療法士科の説明（自己評価報告書；57 ページ～60 ページ）

教員

作業療法士科の説明（自己評価報告書；61 ページ～63 ページ）

教員

言語聴覚士科の説明（自己評価報告書；64 ページ～67 ページ）

教員

臨床工学専攻科の説明（自己評価報告書；68 ページ～70 ページ）

議長

これで各学科からの報告は終わった。先生方の指導・教育に向けての熱い思いが伝わってくる。卒業生の一人として非常に感銘を受けている。
評議員の先生方から質問はないか。

カリキュラムが改正されると聞いているが、実習時間が増えるのか。

教員

実習時間週 45 時間を 40 時間に減らし、家庭学習を入れて週当たり 45 時間となる。
週 45 時間のとらえ方が変わった。

議長

理学療法士科、作業療法士科、言語聴覚士科は 1 年次から実習に行っているようだが帰ってきた学生の印象は変わっているだろう。

昨年も話したと思うが、放射線科他まだ実施していない学科も、できれば実施してみてほしい。

以上で終了としたい。円滑な進行に協力を頂き感謝する。

司会

最後に学校長よりお礼を述べさせていただく。

学校長

昨年度のまとめについて長時間ご検討いただいた。学校の状況、医療現場での現状から、今後の医療の方向を含めご意見、ご感想をお願いしたい。皆様の貴重な意見として、今後の指導計画、学校運営などに生かしたい。

司会 以上を持ちまして、令和元年度学校評議会を終了する。